



写真提供 / 八戸市

八戸市みなと体験学習館(愛称:みなっ知)



会報 防災だより

2019
VOL.23

9月30日発行

CONTENTS

1. 会長退任のご挨拶 参与 (前会長) 大黒 裕 明 2P
2. 会長就任のご挨拶 新会長 齊 藤 浩 3P
3. 第11回防災意見発表会 4P
4. 令和元年度 定時総会 5P
5. 令和元年度 事業計画 5P
6. 新規加入事業所紹介 5P
7. 防火管理に関する資格取得講習会開催 (後援) 6P
8. 第42回少年消防クラブリーダー研修会 (後援) 6P
9. 消防本部からのお知らせ 7~8P

題字揮毫 大黒前会長



ご挨拶

八戸地域防災協会

参与（前会長） 大黒 裕明

本年の総会で無事会長職を退任させていただきました。在任中は様々なご理解とご協力を賜り衷心より感謝申し上げます。

八戸に来てから三十四年経過しましたが、地域防災協会及びその前の防火管理者協会理事の頃から勘定すると、活動をしていたのは合計で十六年を数え、こちらに居を移してからほぼ半分の期間防災活動に関わっていたことになりました。本業が、プロパンガス・石油・都市ガスなどの燃料販売で「安全・安心」をお客様にアピールしなければならぬ仕事ですから当然ではあります。皆様のおかげで私なりに楽しく充実した仕事をさせていたいただきました。

今だから申し上げますが、最初会長就任の打診を受けた時、いさ

さか躊躇しました。

「私で良いのだろうか。他に相応しい方がおられるのではないか。」という気持ちです。というのは、引越してきて数年経ち、地域の人たちと親交を深める必要を感じいろいろな会合に積極的に顔を出し始めていた頃、ある、それなりに重職についておられる方から、「いろんな組織のトップに立つのは八高出身のものでなければならぬ。」と言われたことがあるからです。

さらに、「大学がどこかは問題ではない。とにかく八高であることだ。」とも付け足されました。

八戸とはそんな街なのか、と正直驚きました。もともと、それは反対に、「例えば漁師という職業や新産都市計画に伴い各地を渡

り歩いている人がたくさん集まっていた街なんだから、そんなことに拘らず、広く人材を活用すべきだ。」とおっしゃる方もたくさんおられるのをその後知りましたが、最初の印象は強烈で、以来いろんな団体の役職の委嘱を受ける時、ためらいと悩みが起らないことはありませんでした。最近でこそ、声を大きくして上のような主張をなさる方は昔より少なくなつたとは思いますが、でも心の奥底でまだそんな気持ちを秘めていると感じられる方は今でもいらっしゃるように思います。

これからの八戸は人口減少が間違いなく起こります。古い考えを捨てなければ、他地域から転入しようという人だけでなくいったん街を離れたけれど再び戻ろうという人も増えないのではないのでしょうか。ですから、地域防災協会では海外出身の方も含め、いろんな方に参加をお願いしたつもりです。

さて、当会ではこれまで不注意や不心得による火災の防止と、天災による被害を最小限に食い止めるための普段の心がけの啓蒙などを中心にしてまいりましたが、いま世界情勢に黒い雲が立ち上がりかけています。ひよっとしたら将来外国から攻撃を受けた時の備えなども検討しなければならぬかもしれないと不安で、そうならないよう祈るばかりです。とにかく、まず自分から火災や事故を起こさない、大自然の驚異や不測の事態などにも慌てないという気持ちだけはしっかり持ち続けていきたいと改めて心に刻んでいます。

次期会長さんにも私の時以上のご協力をお願いします。許されるなら、機会があれば偶には皆さんのお顔を拝見したいと願っています。どうもありがとうございます。



会長就任のご挨拶

八戸地域防災協会
会長 齊藤 浩

東北医療福祉事業協同組合（S Gグループ）の齊藤と申します。

この度、大黒会長からバトンを引き継ぐことになりました。会員の皆様から今まで以上の深いご理解とご支援・ご協力を賜り、微力ではありますが歴史ある協会の運営に努めて参りたいと思います。

さて、八戸地域防災協会は、平成20（2008）年4月に、それまで消防外郭団体としてそれぞれ活動して参りました八戸地域広域防火管理者協会（昭和47年7月設立）、八戸消防設備協会（昭和50年10月設立）、そして八戸市自衛消防連絡協議会（昭和43年4月設立）の三団体が、効率的な活動を

行い地域の防災思想の普及に努めるといふ趣旨の下に統合、設立されました。本協会は、八戸広域消防本部管内の市町村にある約900の

業種、業態の異なる企業で組織され、防火・防災を担当されている役職も社長さん、部長さん、課長さん等様々です。こうした異業種の集まりという特色を生かし、私的・公的に関わらず会員相互のネットワークを活用し地域に貢献できればと考えます。

最近、日本列島の各地において自然災害が多発しています。物理学者でもあった寺田寅彦は、「天災は忘れたころにやってくる」といつていましたが、今や「天災は

忘れないうちに・・・」になっていきます。忘れないうちに起きるのであれば、これをプラスに考え、多くの教訓を活かし経験値を高めることにより今後発生する災害に対処していけるのではないのでしょうか。

防災は、ハード（防災の為の建築物）とソフト（防災教育）の両立が重要とされていますが、ソフトの重要性が改めて認識されたものとして、皆さんもよくご存知の

「釜石の奇跡」と呼ばれた事例があります。これは海に近い地区の小中学生たちが日ごろの「てんでんこ」（東北・三陸地方の方言で「それぞれ」という意）の学校教育を心に留め地震直後に丘に向かって走り、大人達もそれに続き、避難した約600人全員が助かったとの事です。超巨大地震後に大津波に襲

われた東日本各地の沿岸部の市町村の中で、釜石市の小中学生が99.8%生きることができたのは、「自分の命は自分で守れ」と教えられ、瞬時の判断と行動ができたのは災害への認識に基づく教育と訓練の成果にほかならないと思います。災害教育によって「生きのびる力」を身につけ、「自分の命は自分で守る」ことをしっかりと植えていたのです。

私達も、災害に対する認識を深め「地域の安全、安心、あなたとともに」を合言葉に志を同じくする会員同士の更なる交流を重ね、令和新時代の地域防災思想の啓蒙と普及に努めて参りますので何卒よろしくお願い申し上げます。

第11回 防災意見発表会



定時総会に先立ちまして、「第11回防災意見発表会」が八戸パークホテルにおいて開催され、会員事業所から2名、少年消防クラブから2名、及び消防職員1名の計5名の方が防災に関する発表を行いました。



大黒会長あいさつ

発表者の貴重な体験や提言に、出席した多くの会員が聞き入り、大変有意義な意見発表会となりました。



上野消防長講評

上野消防長から、「本日、ここにお集まりの皆様が、今後、職場はもとより地域、そして家族に防災意識を広げていただくことを御期待申し上げます。」と講評をいただきました。

「防災士資格を取得して」



三戸町役場
しらやま 三戸町役場
りょうた 亮太さん

白山さんは、昨年防災士を取得され、災害時の基本理念である「自助」「共助」、そして民間と自治体が協力して活動する「協働」により、災害被害の軽減が実現されることを学ぶことができたことと、被災者は防災士や行政に頼るのではなく、一人ひとりが防災のことを考え、普段から防災対策を準備しておくことが、最も重要であると発表されました。

「消防クラブの活動について」



八戸工業大学第一高等学校
消防クラブ

せんたい たいと
まつざか 斗樹さん
松坂 樹さん

昨年度の優良な少年消防クラブに認められ、消防庁長官賞を受賞された、八工大一高消防クラブのクラブ員でもある二人の発表からは、消防本部で行われた消防業務説明会に参加して、消防士の詳しい仕事内容を知ったことで、魅力を感じ将来は消防士を目指すという思いと、安心して暮らせる地域のボランティア活動に積極的に参加したいという強い思いが伺えました。

「職場の防災管理について」



(株)ユアテック八戸営業所
みやばら 宮原 快さん

宮原さんは、電圧6万6千ボルト以上の変電所の危険と隣り合わせの

監督業務を行う中で、ベテラン、新人関係なく危険作業に対して常にコミュニケーションがとれる、安全意識の高い現場環境づくりの重要性などを発表されました。

「消防ダイバーシティ」



八戸消防署
みかみま 三上真知子さん

三上さんは、全国女性消防職員交流会で、企業の方が、「多様な人材と価値観を受け入れることが、お客に喜ばれ、企業の発展に繋がる。ダイバーシティは経営戦略の一つです。」と話していたことから、消防にも当てはまると感じ、母親となった自身の経験から、新たな救命講習会として、ママと赤ちゃんの「子育てベビーマッサージ救急教室」の開催を提案されました。

令和元年度 定時総会開催



去る5月22日(水)、八戸パークホテルにおいて、令和元年度八戸地域防災協会総会が開催されました。

総会は会員94名が出席の中、大黒会長が議長を務め、平成30年度事業結果報告、収支決算報告、更に令和元年度事業計画(案)、収支予算(案)を事務局が説明し承認・議決されました。続いて役員の改選が行われ、新会長に齊藤副会長が就任し、それぞれの新役員が決定されました。

審議終了後には、功労者表彰が行われ、感謝状と記念品の贈呈が行われました。功労者表彰受賞者は次の方々です。

(右から)

藤本啓一前理事
(代理)

福澤光雄前副会長
(代理)

小野十三宏前副会長

大黒 会長

荒沢鉄男前理事
(代理)

中里政廣前理事

※佐々木敏治前理事は
諸事情により欠席

総会後には同会場において、多くの来賓を招待しての懇談会が行われ、盛会裏に終了いたしました。



懇談会乾杯 (上野八戸市消防団長)



功労者表彰受賞者と大黒会長

令和元年度 事業計画

- 1 災害時要援護者支援事業
 - (1) 住宅用火災警報器寄贈設置
 - (2) 電気・水道、燃焼器具設備等の点検修理
- 2 防火防災思想普及事業
 - (1) 火災予防運動用ポスター作成及び配布
 - (2) 各種防火チラシ作成及び配布
- 3 研修
 - (1) 消防設備等の研修
 - (2) 各種施設等の見学
 - (3) 講演会の開催
 - (4) 消火訓練の実施及び各種訓練への参加
 - (5) 救命講習の実施
 - (6) 防災士の養成
- 4 機関紙の発行
- 5 消防関係資格取得講習会等の後援及び情報提供
 - (1) 防火管理者新規講習会の後援及び実施の周知
 - (2) 甲種防火管理再講習の後援
 - (3) 消防設備士試験、事前講習会等の情報提供
- 6 幼年・少年・女性消防クラブの育成援助
- 7 加入促進事業の推進
- 8 防災フェスタ2019の開催

新規加入事業所紹介

○八戸部会

- ・ベジフル株式会社
- ・平賀クリニック
- ・類家五丁目町内会
- ・有限会社 古川不動産

○八戸東部会

- ・有限会社 ゼナン
- ・倉石ハーネス(株)江陽事業所

○三戸部会

- ・有限会社 井上測企
- ・特定非営利活動法人 どんぐりの家
- ・コーポメグ
- ・いろはの居

○おいらせ部会

- ・タナカホーム株式会社
- おいらせ店

(令和元年9月1日現在)

防火管理に関する

資格取得講習会開催（後援）

令和元年度の甲種防火管理資格取得講習会が、八戸消防本部で7月9・10日、7月30・31日の各二日間、計2回にわたり開催されました。消防法により、一定規模以上の防火対象物は、防火管理の資格を有する者を防火管理者として定めることとなっており、本講習会は、その資



格を取得するためのもので、今回の講習会では、計254名の方が防火管理の資格を取得されました。今年度は、さらに11月18・19日、12月24・25日の開催を予定しております。



第42回少年消防クラブ

リーダー研修会開催（後援）

種差少年自然の家において、7月22日（月）から7月24日（水）までの2泊3日で第42回少年消防クラブリーダー研修会及び消防体験研修会が行われ、少年消防クラブ員と参加希望者、計28名が参加しました。

当協会は、研修会の後援となっております。おり入所式では、齊藤会長から励ましの言葉とともに記念品として少年消防クラブのシンボルマーク入りアポロキャップを全員に贈呈しました。

防災意識を育む目的で実施しているこの研修は、各々がリーダーとしての協調性や指導力を身に付けるため、災害時の状況判断や価値観を共有するため、避難訓練や価値観を共有体験、濃煙体験などを実施し、さらには班ごとに防災をテーマに寸劇で披露するスタンプ等を実施しました。



▲齊藤会長からアポロキャップを贈呈



集合写真



▶ジェットシューターによる消火訓練



◀レスキュー体験

消防本部からのお知らせ

広域圏内の火災概況 (2019年1月1日～6月30日)

☆ 2019年上半期の火災の発生状況は、総出火件数が89件で、前年に比べ18件の増加となっている。
火災種別では、建物火災34件、林野火災13件、車両火災6件、その他の火災36件となっている。
焼損棟数は69棟、り災世帯は34世帯、り災人員は76人、死者は7人、負傷者は15人となっている。



区 分		2019年(A)	2018年(B)	増減(A)-(B)
総 出 火 件 数		89	71	18
火 災 種 別	建 物	34	35	△ 1
	林 野	13	7	6
	車 両	6	6	
	船 舶			
	航 空 機			
	そ の 他	36	23	13
焼 損 棟 数 (棟)		69	49	20
程 度	全 焼	27	18	9
	半 焼	5	3	2
	部 分 焼	21	23	△ 2
	ほ や	16	5	11
り 災 世 帯		34	20	14
程 度	全 損	10	7	3
	半 損	3	1	2
	小 損	21	12	9
り 災 人 員 (人)		76	36	40
死 者 (人)		7	3	4
負 傷 者 (人)		15	6	9

《2019年 住宅用火災警報器奏功事例》



火災に早く気づき、火災の拡大に至らなかった事例	
1	居室から出火。家人が住警器の鳴動に気づき、初期消火を実施した。【ほや】
2	台所から出火。通行人が住警器の鳴動に気づき、家人とともに初期消火を実施した。【ほや】
3	洗面所から出火。家人が住警器の鳴動に気づき、初期消火を実施した。【ほや】
火災に早く気づき、命をとりとめることができた事例	
1	寝室から出火。家人が住警器の鳴動に気づき、火災を確認し火災は拡大していたため、家族全員で避難した。火傷者なし。【全焼】
2	寝室から出火。家人が住警器の鳴動に気づき、火災を確認し初期消火を実施したが、火災が拡大したため家族全員で避難した。火傷者なし。【半焼】

〈風水害発生時における危険物保安上の留意事項について〉

令和元年8月、大雨に伴う河川氾濫により佐賀県大町町の鉄工所から大量の焼き入れ油等が流出する事故が発生しました。危険物施設における風水害対策については、以下の点についての徹底をお願いいたします。(平成30年9月27日付け消防危第179号参照)

- ① 平時より浸水区域等を確認すること。
- ② 風水害の危険が高まってきた場合は、災害に応じた応急対策を実施し、速やかな消防機関への通報を行うこと。
- ③ 天候回復後の再稼働は点検・補修後に行い、電気設備や配線の健全性を確認すること。

〈ガソリンを携行缶で購入される皆様へ〉



令和元年7月18日、京都府京都市伏見区において、死者35名、負傷者34名の極めて重大な人的被害を伴う爆発火災が発生しました。
同種事案の未然防止を図るため、ガソリンを容器で購入する際は以下の点についてご協力ください。



ガソリンの適正な使用を徹底するため、ガソリンを携行缶で購入される方に対して、

- ① 身分証の確認
- ② 使用目的の問いかけ

を行うとともに、販売記録を作成しています。皆様のご理解とご協力をお願いします。



⚠️ ガソリンを取り扱うときの注意事項 ⚠️

①ガソリンは、灯油用ポリ容器に入れることはできません。



灯油用ポリ容器



ガソリン携行缶

②ガソリン携行缶に貼られている注意事項に留意して、取り扱ってください。

！噴出注意！

- ★周囲の安全を確認
- ★フタを開ける前に
 - ①エンジン停止
 - ②エア抜きをする
- ★高温の場所禁止

③セルフスタンドにおいても、ガソリンの容器への詰め替えは、ガソリンスタンドの従業員が行う必要があります。

予防課職員紹介

今年度、当協会事務局のある八戸消防本部予防課職員は、次のとおりです。

大野 喜代治 (課長)

松坂 元 (課長補佐)

三浦 忠則

(副参事兼保安調査班長)

菊地 潤

(副参事兼設備指導班長)

◎小笠原 大樹 (副参事)

佐々木 隆行 (保安調査班主査)

岩澤 晃一 (設備指導班主査)

檜館 拓也 (保安調査班主査)

佐々木 祐介 (設備指導班)

石村 正平 (保安調査班)

中村 繁樹 (予防査察担当)

山内 秀夫 (予防査察担当)

田中 正二 (予防査察担当)

下館 正壽 (予防査察担当)

《協会臨時事務職員》

◎淡路 恵

H 29・12・1採用

※◎は、事務局担当

今後とも、宜しくお願いします。

〈表紙の写真について〉

八戸市みなと体験学習館 (愛称:みなっ知)



八戸市みなと体験学習館は、旧八戸測候所を改修し、湊地域の歴史・文化と東日本大震災の被害を伝える学習の場として、令和元年7月6日にオープンしました。災害時の防災機能も備えており、東日本大震災の実情や教訓を広く国内外及び次世代に伝承する「震災伝承施設」としても登録されています。